

特 集

2012年度

SAJ公認スキー指導員検定会（第1会場）

観 戰 記

広 報 部

平成24年2月24日から26日まで、朝里川温泉スキー場で開催された「2012年度SAJ公認スキー指導員検定会(第1会場)」を久しぶりに観戦・取材させていただいた。

この検定会は、昭和14年に初めて開催され、途中戦争で中断されたものの、終戦後の昭和22年には復活。以来、今シーズンで65年目を数えようとしている伝統ある検定制度である。



平成24年度 開会式風景

今シーズンは、北海道にスキーが伝来して百年目、北海道スキー指導者協会（旧指導員会）が創立60周年、機関誌シユプールも40号という記念すべき年に当たることから特集を企画させていただいたものである。

検定初日となる24日は、早朝からの雪も理論検定が終わる頃には晴れ上がり、絶好の検定日和となった。会場の検定バーンは、「なめるが如く」綺麗に整備され、ひと昔前の天狗山とは雲泥の差があるように感じたのは私だけか？

開会式は、近代的なリゾートホテルの朝里クラッセホテル・スポーツアリーナにて9時開

始。

会場にはスキー指導員受検者163名、A級検定員受検者19名、スノーボード指導員受検者28名の他、役員・関係者を含め約250名が参集。

アリーナ全体が沸き立つような熱気に包まれた開会式となった。

生憎この日は、道南地区、本州方面の大雪の影響で交通機関が大幅に乱れ、数名の遅刻者は出たが開会式は予定通りに開始。

最初に登壇したSAJ検定責任者挨拶では、登山理事からこの検定会の歴史的紹介があり、今回のようにスノーボードとの同日、同会場で実施されるのは始めてであることも披露され、受検者には日頃研鑽してきた技術を遺憾なく発揮して、悔いの残らない検定会にして欲しい旨の激励があった。

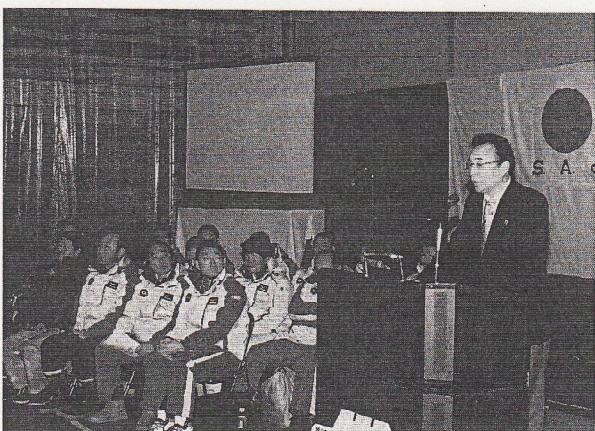
来賓として、道連吉田教育本部長から指導者のるべき姿や資質、人間として魅力ある指導者になって欲しい旨のお話があり、今回の高齢受検者への激励と準指ではなく、指導員として指導したいという意欲ある人に是非合格してもらいたいと挨拶。

続いてスキー場支配人から歓迎の挨拶、小樽スキー連盟会長が紹介され、いよいよ主役である土田主任検定員から各検定員が紹介された。

続いて、スノーボード高橋主任検定員からボード検定員が紹介され、現地総務から庶務連絡があり、式は終了。10時ジャストから理論検定が開始された。



SAJ責任者 登山理事挨拶



来賓 道連吉田本部長挨拶



土田主任検定員から検定員の紹介

昼食時間を探して13時15分から実技検定が開始されたが、シュプール取材班は、受検者のコメントを聞く班と写真班の二手に別れ、大いに奮闘した3日間となりました。

スキー指導員班は、1班から4班まで。取材班は、1班の単位グループに密着して取材を開

始。45名の単位班は、個人によって受検種目が違うため、取材側としては非常にやりにくいことが初めてわかりました。特に、ビブナンバーが飛び飛びなので、撮影の時に別人を撮ったり、撮り逃がしたりと悪戦苦闘の取材となりました。

検定は、A単位 谷回りの連続（制動要素）から開始。緩斜面ではあるが、合格率が意外と悪く難しいとされ、正確な演技が必要とされる種目である。しかし、単位班を引率するSAJ浜辺受検管理者が種目ごとに行うアドバイスがユーモアに溢れ、受検者には「あの一言でリラックスできた」と大好評で、笑顔も見られる和やかムードの受検班であった。反面、全種目を受検する2班から4班までの受検者からは、ピリピリした緊張感がこちらにも伝わってくるほどで、リフトで一緒になった受検者に「調子はどうですか？」と尋ねたが「・・・」と寡黙。

さすがに1班は、既に単位を取得している余裕とでも言うのか、全体にリラックスムードを感じたものである。



緊張感いっぱいの理論検定風景

2種目目は、C単位 フリースタイル（リズム変化ナチュラル）。この種目はコースの途中から中・急斜面となるため、大回りから中・小回りへのリズム変化がポイントになる。

3種目目は、B単位 パラレルターン（小回りナチュラル）レッドコース急斜面整地であるが、この日は好天にも恵まれ、視界も良く全員伸び伸びと滑っていたようである。初日の実技検定は、15時過ぎに終了。しかし、受検者達は